

日本の森林の大切な価値 多種多様な「保安林」の機能

日本国土の森林のうち、約3分の1は保安林として役割を担っています。その保安林から、私たちの生活を支える様々な役割が見えてきます。我が国の森林を守る仕事と啓発を行う『株式会社高橋林業』の高橋さんに、保安林の役割についてお聞きしました。



株式会社高橋林業
代表取締役 高橋正二さん
神奈川県出身。山梨県庁退職後、森林組合の参事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、『株式会社高橋林業』を設立。

日本では、昔から大切に守られてきた森林を法律で「保安林」と定め、勝手に樹木を伐採したり、道路を作るなどの行為を禁じています。保安林の種類は多種多様で、農林水産大臣が指定するものだけでも17種類あります。その保安林の役割として挙げられるのが保水効果で



す。地層に浸透した雨水を蓄える「水源涵養林」として水資源の保護を行い、「土砂流出防備林」は水害や土砂崩れなどの被害の防止という役割をしています。この「水源涵養林」と「土砂流出防備林」を合わせると、保安林全体のおよそ約9割を占めます。なので豪雨災害などが頻発している今だからこそ、保安林の価値を見直さなくてはなりません。開発の名のもとに森林を乱伐したり、整備を怠ることはあってはならないのです。

他にも風を防ぐ「防風林」や「なだれ防止林」などもあります。あまり知られていない保安林もご紹介します。魚の繁殖を促す「魚つき保安

林」に、飛行機や船舶がその森林を目標にして港の位置を正確に把握するための「航行目標林」、景観維持のために保護される「風致保安林」などもあります。保安林の機能を知ること、私たちの生活が森林に支えられていることがわかります。

私たちの祖先是森林と共に暮らし、山の恵みを衣食住に活かし暮らしてきました。森林からの恩恵を身を受けながら、それらを守り育てていくにはいけません。私たちが含む地球上に生息しているすべての「いきもの」は、森林と相互に依存し合ってバランスのとれた生態系を維持しながら生きていますからね。